

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊実務/企業経営			

授業の到達目標

演習のテーマは、「ツーリズム&ホスピタリティ産業におけるマネジメント」である。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような事業戦略が必要かを考察する。ツーリズム&ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導き出す手法を身につけるのが目標である。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。PBLで考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。特に古民家再生による宿泊業に焦点を当てホスピタリティの価値、労働生産性向上を踏まえ地域活性化の現状を理解する。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 地域振興と古民家再生を考える(1)
- 3 地域振興と古民家再生を考える(2)
- 4 地域と観光の市場環境(マクロ環境)
- 5 ビジネスフレームワーク(5 focusの理解)
- 6 ビジネスフレームワーク(STPの理解)
- 7 従業員エンゲージメントと労働生産性
- 8 組織論(多元型と進化型)
- 9 フィールドワーク準備
- 10 フィールドワーク準備
- 11 フィールドワーク準備
- 12 フィールドワーク実施
- 13 フィールドワークのまとめ
- 14 フィールドワークのまとめ
- 15 フィールドワークのまとめ

授業の方法

PBL (project Based Learning) によるフィールドワークの実践。座

学と古民家再生の宿泊事業案件の調査する。レポートやパワーポイントを使用しディスカッションする。

準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

課題・評価方法、その他

事前学習課題50%

発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社
*このテキストは演習Ⅲ・Ⅳでも使用する。

参考図書

内藤耕 『サービス産業 労働生産性の革新』 旅行新聞社
内藤耕 『サービス産業 生産性向上入門』 日刊工業新聞
Kotler 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』 ピアソン・エデュケーション
M.E.Poter 『競争の戦略』 ダイヤモンド社
Jay B. Barney 『企業戦略論』 ダイヤモンド社

留意事項

事前学習の課題を第1回講義日に提出する。
演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークがあります。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	g		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション
- 2 New Yorkers
- 3 New Yorkers
- 4 New Yorkers
- 5 New Yorkers
- 6 New Yorkers
- 7 New Yorkers: presentation
- 8 Hamlet
- 9 Hamlet
- 10 Hamlet
- 11 Hamlet
- 12 Hamlet
- 13 Hamlet: interpretation
- 14 Hamlet: interpretation
- 15 Hamlet: presentation

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。PBLを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を維持し、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習Ⅱでは、演習Ⅰでツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問した結果をレポートやPowerPointにまとめプレゼンテーションをおこなう。

授業計画

- 1 演習の概要説明
- 2 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
- 3 フィールドワークの結果をPowerPointにまとめる。
- 4 ビジネスフレームワーク復習
- 5 ビジネスフレームワーク復習
- 6 ビジネスフレームワーク復習
- 7 卒業研究の取組について
- 8 卒業研究のテーマと先行研究①
- 9 卒業研究のテーマと先行研究②
- 10 卒業研究のテーマと先行研究③
- 11 卒業研究のテーマの発表①
- 12 卒業研究のテーマの発表②
- 13 卒業研究のテーマの発表③
- 14 卒業研究のテーマの発表④
- 15 まとめ

授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

課題・評価方法、その他

課題50%、発表50%

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

演習Ⅰと同じ

参考図書

内藤耕（2015）『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler（2003）『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter（2012）『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney（2011）『企業戦略論』ダイヤモンド社
 浜田麻里他（2012）『論文ワークブック』くろしお出版
 小笠原喜康（2002）『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めません。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、観光マーケティング論・ホスピタリティマネジメントを履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究を中心に進捗状況を発表し、他のゼミ生と意見交換をする。

授業計画

- 1 研究の進め方
- 2 研究テーマについて発表
- 3 卒業研究の書き方(研究計画について)
- 4 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
- 5 個人発表と質疑応答
- 6 個人発表と質疑応答
- 7 個人発表と質疑応答
- 8 個人発表と質疑応答
- 9 個人発表と質疑応答
- 10 個人発表と質疑応答
- 11 個人発表と質疑応答
- 12 個人発表と質疑応答
- 13 研究計画書の発表
- 14 研究計画書の発表
- 15 まとめ

授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

テキストは3年次購入した研究論文の書き方を使用する。

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕 『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社

留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

- 1 個人課題の研究発表・討論・講評
- 2 個人課題の研究発表・討論・講評
- 3 個人課題の研究発表・討論・講評
- 4 個人課題の研究発表・討論・講評
- 5 個人課題の研究発表・討論・講評
- 6 個人課題の研究発表・討論・講評
- 7 個人課題の研究発表・討論・講評
- 8 個人課題の研究発表・討論・講評
- 9 個人課題の研究発表・討論・講評
- 10 個人課題の研究発表・討論・講評
- 11 個人課題の研究発表・討論・講評
- 12 個人課題の研究発表・討論・講評
- 13 個人課題の研究発表・討論・講評
- 14 個人課題の研究発表・討論・講評
- 15 個人課題の研究発表・討論・講評

授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて配布する

参考図書

必要に応じて紹介する

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	g		13109	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

授業計画

- 1 イントロダクション、卒業研究第一章発表
- 2 Tales of Mystery and Imagination: "The Fall of the House of Usher"
- 3 Tales of Mystery and Imagination: "The Fall of the House of Usher"
- 4 第1章の原稿発表。
- 5 Tales of Mystery and Imagination: "The Black Cat"
- 6 Tales of Mystery and Imagination: "The Black Cat"
- 7 第二章の構想発表。
- 8 Tales of Mystery and Imagination: "The Mask of Red Death"
- 9 Tales of Mystery and Imagination: "The Mask of Red Death"
- 10 第二章原稿発表。
- 11 Tales of Mystery and Imagination: "William Wilson"
- 12 Tales of Mystery and Imagination: "William Wilson"
- 13 Tales of Mystery and Imagination: "The Tell-Tale Heart"
- 14 Tales of Mystery and Imagination: "The Tell-Tale Heart"
- 15 第三章構想発表。

授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点（発言）70%、レポート20%。

欠席について

規定に従う。

テキスト

適時指示をする。

教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究を中心とし、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生と意見交換をする。

授業計画

- 1 ガイダンスとスケジュールの決定
- 2 卒業研究作成におけるwordの使い方
- 3 卒業研究の参考文献・引用文献について
- 4 卒業研究のアンケートと図表について
- 5 個人研究発表
- 6 個人研究発表
- 7 個人研究発表
- 8 個人研究発表
- 9 個人研究発表
- 10 個人研究発表
- 11 個人研究発表
- 12 個人研究発表
(研究成果の提出)
- 13 個人研究発表
- 14 個人研究発表
- 15 口頭試問

授業の方法

個人発表とディスカッションを中心におこなう。

準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介します。読んでレポートすること。

課題・評価方法、その他

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

欠席について

大学の規定通り。

テキスト

特になし

参考図書

研究テーマ別に紹介する。
 内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社
 内藤耕 『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社
 浜田麻里他 (2012) 『論文ワークブック』くろしお出版
 小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』講談社

留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山でなく社会の課題を観光の視点から考察する。観光全般の基礎知識の習得が目標である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、政策、心理、主な観光産業等幅広い内容で構成される。

授業計画

- 1 ガイダンス
観光の現状を理解する。
- 2 観光学と観光の歴史
(観光の語源と定義・日本観光史他)
- 3 世界の観光史
- 4 観光と地域文化
(観光と環境)
- 5 新時代の観光文化
(観光資源とコンテンツツーリズム)
- 6 観光と多文化理解
- 7 観光心理
- 8 観光とマーケティング
- 9 観光の諸政策
(観光政策と仕組み)
- 10 主要な観光事業・鉄道事業
- 11 主要な観光事業・航空運送業
- 12 主要な観光事業・宿泊業
- 13 主要な観光事業・旅行業
- 14 主要な観光事業・遊園地とテーマパーク
- 15 観光学まとめ
総括試験

授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

課題・評価方法、その他

課題30% 統括試験70%

欠席について

本学の規定通り。

テキスト

高柳直弥他『新時代の観光を学ぶ』八千代出版 2019

参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社
岡本伸之『観光学入門』有斐閣
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

留意事項

観光領域の基礎科目である。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
白井 昭彦	選択	2	航空会社			

授業の到達目標

観光庁のHPや観光白書などを通じて観光に関する専門用語を始め基本的な知識と考え方を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。その上で国際観光の重要性と我が国の現状を認識し、今後の国際交流のあり方や課題等について考察できるとともに様々な対応方策について自らの考えをまとめ、発表することができる。

授業の概要

世界観光機構（UNWTO）、OECD、日本の観光庁・JNTOなどのデータを基に、日本と諸外国の観光政策、国際交流の意義を理解する。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、シラバス（講義計画）
- 2 観光の魅力
- 3 都市コード・空港コード・航空会社コード
- 4 日本の観光政策と受入体制Ⅰ
- 5 日本の観光政策と受入体制Ⅱ
- 6 日本の観光動向Ⅰ
- 7 日本の都市の観光動向Ⅱ
- 8 訪日外国人消費行動
- 9 世界の観光政策と受入体制Ⅰ
- 10 世界の観光政策と受入体制Ⅱ
- 11 世界のMICE動向
- 12 世界の観光動向Ⅰ
- 13 世界の観光動向Ⅱ
- 14 日本の問題点
- 15 総まとめの後定期試験60分

授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中に与えられた課題についての各自からの発表やグループでのディスカッションも取り入れる。

準備学修

ニュースなどを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集する。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の既定の通り。

テキスト

Classroomで講義資料を配布する。

参考図書

「観光白書」国土交通省編
「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

教員連絡先

shirai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を深める補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を活用する。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 ケータリング事業
- 14 購買とFBCC
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

授業計画

- 1 神戸海岸通りと旧居留地
陳舜臣「枯草の根」を読み、神戸居留地の歴史を振り返る。
- 2 神戸の海岸線
村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
- 3 雑居地文化と異人館通り
宮本輝「花の降る午後」を読む。雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。神戸のスイーツやパン、洋食文化にも触れる。
- 4 神戸モダニズム
稲垣足穂「星を造る人」を読み、トーアロード周辺から発信された、神戸モダニズムについて考察する。
- 5 他地域からの視点
堀辰雄「旅の絵」を読み、東京からのお客様である堀辰雄を案内した竹中郁のエッセイにも触れる。外から見た神戸文化について考察する
- 6 ミステリー発祥の地としての神戸
横溝正史「虹のある風景」を読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
- 7 川崎造船所と神戸の町
久坂葉子「ドミノのお告げ」を読む。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れ、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。
- 8 鈴木商店を支えた女性
玉岡かおる「お家さん」を読む。かつて世界を掴んだ神戸の個人商店鈴木商店。その歩みと、鈴木商店を支えた神戸の女性の生き方を考察する。
- 9 プレゼンテーション発表

- 10 プレゼンテーション発表
- 11 プレゼンテーション発表
- 12 プレゼンテーション発表
- 13 映画に登場する神戸の風景
有川浩「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。
- 14 神戸モダニズムの転換期
昭和40年代の神戸と阪神間文化について考察する。かつてモダンと呼ばれた文化がレトロと呼ばれるようになった時、神戸では何が起こったのか。文学作品を参考資料として考察していく。
- 15 神戸と坂の物語
神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある。それらを、考察していくことでまとめとする。

授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

min@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。